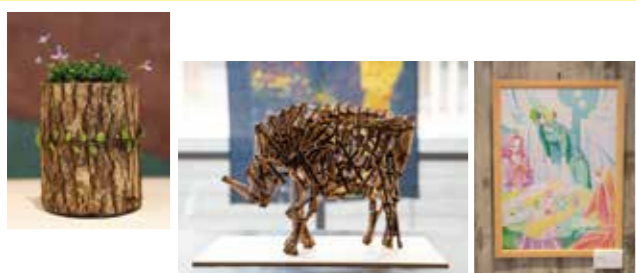


ユスカル! 2019 開催しました

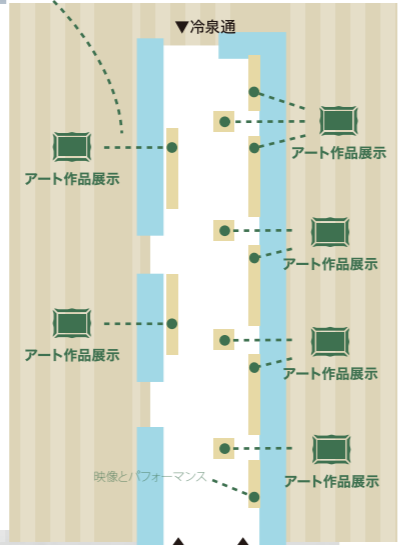
11月16日に、ロームシアター京都にて、『ユスカル!(若者文化市)2019』を開催しました。このイベントは、若者文化の発信事業として、ジャンルを固定せず、若者が面白いと感じていること、表現したい・発信したいことを公募し、ステージとブースを中心に、「若者のミカタ(親方、見方)」をテーマとして、若者からの発信を通して、他の若者や大人の視点からの気づきや発見、若者を応援してくれる人が増えることを目指し、昨年から実施しています。若者が企画運営を担い、各エリアでの出演・出展・出店でたくさんの方々に向けて、自分の日頃の活動や思いを様々な形で発信、交流しました。参加者数は、のべ5,000名(出演・出展・出店・来場者含む)でした。



絵画、イラスト、写真、輪ゴムを使った立体作品、細かな細工で作られた造形作品や実験的に日々創作し続けている作品などを展示しました。明るい日差しを受けて、また表情(見え方)が変わっていく作品もあり、歩いている人も思わず足を止めて見入っていました。



青少年活動センターの共通の特徴でもあるロビーを再現しました。靴を脱いで過ごせる小あがりには、こたつや漫画などを用意し、その周りには、机と椅子を並べ、参加型の掲示プログラムも実施しました。その場に居合わせた人たちやロビーボランティアと、ボードゲームを楽しむ姿も見られました。



ステージでは、中高生から大学生、社会人までの幅広い参加者たちによる、ジャズダンス、チアダンス、民族舞踊+コンテンポラリーダンス、ダブルダッチ、コーラス、フットボールパフォーマンス、ジャグリングなど、様々なジャンルのパフォーマンスが繰り広げられました。客席からは大きな歓声があがり、食事エリアや、立ち止まって見入るひとたちからも大きな拍手が起こっていました。ダブルダッチとジャグリングのグループはみやこめっせ会場(京(みやこ)の「わ!」)にも参加。みやこめっせ会場では他に、活動紹介のブース出店も行いました。

ユスカル! 工房
下京青少年活動センターとつながりのある、アウトドアスポット「友愛の丘」のキャンプカウンセラーの皆さんとお届けする、「自然」を使った工作コーナーです。自分だけの作品と一緒に作りましょう!
若者200人に聞いた「どうしてボランティア活動をしていますか?」の声も展示中!



ステージ
若者によるパフォーマンスをお楽しみください各グループの出演時間は上記スケジュールを見てください。
※パフォーマンスの一部は、みやこめっせ会場でも行われます。



ユスカル! カフェ
北、山科、伏見、3つの青少年活動センターの若者が共同し、食をテーマに出店しています。

ホットケーキ・ホットサンド・グリーンカレー・フェアトレードのコーヒーを販売。途切れることなく、多くの方に並んでいただき、スタッフは休む暇もなく、作り続けていました。途中で完売になるメニューも出るなど、大盛況でした。リユース食器を使い、環境にも配慮しました。

京都ええとこMAP
京都のええとこを教えてください。みんなでええとこマップ作る!!

手づくり市&活動発信
若者が手づくりした素敵な作品を販売します。作り手から直接作品に込めた想いを聞くことができます。また、日頃の活動を発信する若者と出会うことができます。

ユスカル! チャレンジコーナー
ユスカル!のオブジェを背景に自分たちの写真を撮って、SNSにアップしてイベントを拡散してください。アップしていただいた方には景品を差し上げます。



ユスカル! ロビー
青少年活動センターのロビー(機能)の一部を再現しています。みんなで楽しめるカードゲームやちよつとしたものづくりも体験できます。



イベントの顔であるタイトル表示を、オブジェとして制作し、ロームスクエア入り口前の広場の中央に配しました。制作に携わったのは、『ユスカル!』の企画ボランティアたち。来場者には、このタイトルオブジェを背景にスマホのカメラで自撮りをしてもらい、その画像をSNSにアップして、イベントの宣伝をしてもらいました。みなさん、ご協力ありがとうございました。



木を使ったものづくり体験として、リースづくりやカードスタンドづくりが人気でした。参加した人たちはそれぞれ楽しみながらオリジナル作品を作っていました。横には巨大な掲示ボードで「ボランティア活動」について様々な声を数多く聞くことができました。



ボランティア企画の「京都のええとこMAP」では、みなさんに京都のええとこを、あそぶ、みる、まなぶなどのジャンル毎に、大きな地図にフラッグピンを刺して教えてもらいました。お隣にはほの暗い小さな家、その隣には絵画や音楽、ワードなどを素材に次々と表現を翻訳して表現するブースが並んでいました。



様々なオリジナル作品が並び、来店者からは創作への思いやこだわりについての質問があり、作品を通じた交流がたくさん見られました。日頃の活動について知ってみたいと集まった高校生や肩もみしながらゆったりとした会話をしている若者など、出店者の個性が光る空間でした。